



多文化共生マネージャーに聞く NPO法人横須賀国際交流協会事務局次長 新倉千草さん

(財)自治体国際化協会支援協力部多文化共生課

(財)自治体国際化協会(以下クレアという)では地方自治体職員、地域国際化協会職員、NPO・NGO団体の職員(多文化共生、福祉、教育等の分野で地方公共団体や地域国際化協会と協働実績があり、それらから推薦を受けた者)を対象として多文化共生

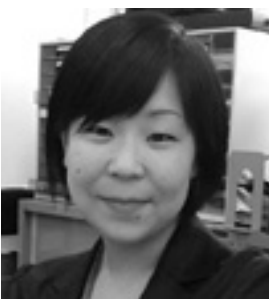
社会に対応できる人材の育成を支援するため、二〇〇六年度から全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催で「多文化共生マネージャー養成コース」研修を実施しています。クレアではその研修費、教材用図書費及び参加者の派遣元からJIAM(滋賀県大津市)までの往復交通費を助成しています。

少人数制の現地研修を交えた実践的な研修により、多文化共生に対応する施策立案能力や、関係機関と相互連携を図っていくためのコーディネート能力を習得し、研修修了者はクレアが「多文化共生マネージャー」として認定しています。認定されますと、希望によりクレアの「多文化共生マネ

ージャー登録台帳」に登録され(二〇〇九年八月一日現在二八名)、当協会の機関誌への寄稿や多文化共生に係るフォーラムへの参加等の機会があります。

二〇〇七年七月に発生した新潟中越沖地震の際には、多くの多文化共生マネージャーが柏崎災害多言語支援センターの活動に参加したり、最近では「多文化共生マネージャー養成コース」の修了生たちが組織する「NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会」も設立される等、その活動は全国に広がっています。

今回はそのように全国各地で活躍している多文化共生マネージャーの一人である、



↑多文化共生マネージャー
新倉千草さん

NPO法人横須賀国際交流協会の新倉千草さんにお話を伺ってきました。

●国際関係に興味を持ち始めたきっかけ及び国際交流協会に入ったきっかけを教えてください。

新倉 「生まれも育ちも横須賀です。横須賀は米軍関係者を含めると一五人に一人は外国人ということもあって、国際交流に親しむ土壌がありました。また、国際交流協会が発足した一九九七年から会員として入会し、ホームステイを受け入れたりしていました。そのような活動をしているうちに次世代の国際交流の担い手を育成したいと思い、協会に就職することになりました。」

●横須賀国際交流協会の外国人施策の特徴を教えてください。

新倉 「横須賀市をはじめとし、様々な機関がそれぞれの強みを生かし、協働の精神で外国人生活相談、日本語講座の提供等の事業を行っています。」

また社会福祉協議会と協働で、本市国際交流課も自ら講師となり「やさしい日本語」の研修も開催しています。外国人にわ



↑「やさしい日本語講座」

かりやすい「やさしい日本語」は、実は日本人の高齢者や子どもにもやさしく、わかりやすいのです。それ故に受講者は、外国人住民だけでなく、民生委員、町内会のみなさん、ボランティア等幅が広いです。こういった身近な視点から様々な方に国際交流、多文化共生に参画、興味をもってもらう機会になるのではないかと考えております。」

●「多文化共生マネージャー養成コース」 はいかがでしたか。

新倉 「『多文化共生マネージャー養成コース』は、私が初めて本格的に受けた研修でした。二〇〇七年当時、職場にも自分にも時間的に余裕がありませんでした。半年間で五日間の研修を二回受けるのは職場にその分穴を空けてしまうので、参加することは悩みましたが、自分自身、それまでやってきた事業に行き詰まりを感じ、さらに事務をする際に必要な知識や考え方、そして連携する際のネットワーク不足を感じ始めていました。最終的にはJ-IAMまでの交通費についてクレアから助成が受けられるということも決め手の一つとなり、研修に参加しました。研修から学んだこととしては横のつながりが無かったことに気づいたこと、自分の所属する協会が他都市の協会と比較して、

どの分野の何をやっていないかを把握できたことが大変有益だったと思います。」

●研修したことと役に立っていることや考 え方はどんなものがありましたか。

新倉 「研修内容はどれも役に立ちました。特に国や県、社会福祉協議会や他県の協会等、全国のネットワークができ、鮮度の高い十分な良質の情報を継続的に得られるようになったことが一番役に立っています。この研修が無ければ今の自分はいないと思えるほど素晴らしい研修でした。」

●研修で出会った人とその後連絡をとって 連携したりしたことはありますか。多文 化共生マネージャーのスキルを身につけ られて、どんな活動ができるようになり ましたか。

新倉 「研修では船橋市役所の高橋伸行さんが参加されており、その場で船橋市と連携して外国人向けの防災講座をやるうという話になりました。元々船橋市と横須賀市は防災協定を結んでおり、有事の際には協力することになっています。消防レベルでは連携をしていますが、外国人に特化した災害時支援はそれまでありませんでした。研修の中で高橋さんが作成した三カ年計画が今まさに両市で実行されています。また、多文化共生マネージャー同士が互いの場所での講演するなど、ネットワークがとても良くなり、それぞれが実施した事業の概要や反省点等の情報共有ができることも良いと思います。そのことにより自身の仕事の仕方が

視野が広がり、日本人も含めた多文化共生の色々な視点をもてるようになったと感じます。」

●これからの自己の展望をお聞かせくだ さい。

新倉 「地元にある学校等で多文化共生の考えを広めていきたいです。若いこれから担う世代に、外国人を『切り口』に様々な視点で多文化共生の考えを提供していきたいですね。また、多文化共生の横軸を通すこと、市役所を例にとれば、『外国人は外国語の対応ができる課へ』という意識ではなく、外国人も日本人と同じように生活のための手続きをするため様々な課を訪れます。どの課にも訪れることができる、それが『当り前』という感覚を持てるようにすること。そのためには各窓口の横軸を通して多文化共生の意識をもって対応できるようにすることが重要だと思っています。『やさしい日本語』で説明すれば外国人にもわかっていただけますよ。」

「多文化共生マネージャー研修」によって、人とのネットワークが広がったことで、ネットワークが良くなり、ゲットワーク（船橋市との協働防災講座等）に繋がったと明るくお話しいただいた新倉さんの目には力があがり、生き生きとしているのがとても印象的でした。これからもぎつと活躍されることでしょう。

文責：平松和幸（稲城市派遣）